

事業名称	地域で取り組む国際理解と多文化共生 ～共に生きる「ふるさと姫路」を創る力の醸成～
団体名・代表者	姫コアネット5 代表者 水田 正俊
協働の相手方	文化国際課（国際交流センター）

目的	姫路市には、外国にルーツがある子供達（以下、外国籍の子供達）が多く在住している。平成27年に本会を立ち上げ、「遊び」を通して国際交流・国際理解の活動に取り組んできた。しかし、活動を続けていく中で、外国籍の子供達の中には文化や言葉の壁だけではなく、地域社会に溶け込めず、同郷の限られた人間関係の中で不安や悩みを抱えて生活など、様々な厳しい現実があることが分かった。そこで、活動の在り方を国際交流・国際理解に留まらず、お互いの文化やアイデンティティを尊重した人と人との繋がりを大切に、地域の大人や外国人の保護者も巻き込んで身近な国際社会の多様性を地域の豊かさに転換していく「仲間づくり」「地域づくり」に繋がる取組の充実・深化を図りたい。
内容	城東町総合センターを拠点に、地元の子供達及び外国籍の子供達が多く居住する地域を中心に次の4つの事業を試みた。 ① 思いっきり遊ぼう「DAY キャンプ」～多文化でエンジョイ JOTO 夏祭り～ ② ふるさと「ひめじ」ウォークラリー ③ わいわいクリスマス会 ④ ワクワク雪遊び in 大屋
事業経過	7月から10回のスタッフ会議を重ね、年間計画及び各事業の内容等を協議した。しかし、新型コロナがまん延した状況下、4事業のうち ② ふるさと「ひめじ」ウォークラリー ③ わいわいクリスマス会は実施できたが、① 思いっきり遊ぼう「DAY キャンプ」～多文化でエンジョイ JOTO 夏祭り～ ④ ワクワク雪遊び in 大屋 を中止せざるを得なかった。
事業の効果	コロナの影響により事業が中止・縮小・変更することがあったが、実施できた2事業において、それぞれの子供達のアイデンティティの確立と姫路へのふるさと意識を高める当初の目的が達成できたと思う。また、地域の大人や外国籍の保護者の協力を得る機会が多くあり、活動を通して、地域における「国際理解・国際交流」の機運や多文化共生への意識変革を促したと思う。
今後の展望	今後とも、行政や団体の支援や助成を受けながら、社会が抱えている国際理解及び多文化共生の課題解決に向けて、今回計画した事業に改善を加えながら地域の実態に応じた取組を継続していきたい。また、多文化共生を核とした「地域づくり」「ふるさとづくり」に向けて、自治会や各種団体等との連携強化と継続可能な組織の構築を図りたい。

【実施団体の事業総括・感想等】

<p>事業の中止・縮小・変更が残念であったが、プログラムの企画・運営について十分な検討や改善が加えられたことの成果は大きい。姫路において、またこれからの社会情勢において、地域で取り組む「国際理解」と「多文化共生」の課題解決がより重要になってくると考える。</p> <p>今後、私たちの活動のノウハウを広げていくため、機会をとらえて広報・発表を行っていききたい。</p>
--

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

<p>コロナのため中止になった事業はあるものの、実施されたイベントの中で子供達がアイデンティティを確立し、姫路へのふるさと意識を高めることができた。また令和4年度策定の本市の「姫路市国際化推進プラン」基本目標2、施策の柱3、具体的施策①により多文化共生の意識づくりに向けた外国人の参画を促しており、プランに沿った施策の展開になっており、今後とも団体と協力しながら、外国人の地域づくりへの参画を促進したい。</p>
--